

令和4年度 学校関係者評価 総括

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

- 1) 看護学校の自己評価結果を元に、外部の意見を反映する学校関係者評価委員会を開催し、その意見を教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に活用する
- 2) 学校関係者との連携により、特色のある学校づくりを推進する。

2. 学校関係者評価委員

規 定	委 員
教育に関し知見を有する者	大学教員養成センター 教授 看護大学校 副学校長
看護管理者経験者	臨地実習施設 看護部長
卒業生	卒業生(19回生)
保護者等	保護者(76回生母)

3. 学校関係者評価実施日

評価日時：令和5年3月17日（金）14：00～16：00

方 法：対面及びWEB（ハイブリッド開催）

II. 令和4年度 看護学校目標

1. 専任教員の教育実践力およびマネジメント力の向上
2. 教育・教務における ICT 活用の推進
3. 広報および学生募集活動の強化
4. 臨床と看護学校の連携の強化

III. 目標についての取り組みと今後の課題

目標 1. 専任教員の教育実践力および学校マネジメント力の向上

取り組み	<ol style="list-style-type: none">1. 講師授業評価と結果への活用<ul style="list-style-type: none">・外部講師の授業評価の実施とフィードバック・評価結果に基づき、学生の学びの促進に繋がる授業内容・方法の調整2. 研究授業（講義・実習）の実施とリフレクションを活用した教育内容の検討<ul style="list-style-type: none">・講義 8 教員、実習 9 教員が実施3. 看護マネジメント能力向上、看護実践力の維持・向上のための実務研修の実施<ul style="list-style-type: none">・管理能力向上のための研修：3名実施 看護実践力向上のための研修：7名実施・中堅教員研修受講：近畿グループ主催 1名 副学校長・教育主事協議会主催 1名4. 研究活動<ul style="list-style-type: none">・学会発表 5 題、雑誌投稿 2 題、研究取り組み 4 題
------	--

今後の取り組みと課題	国立病院機構の利点を活かし、機構内の研修参加や臨床との連携を継続することで各教員の教育実践力とマネジメント力のさらなる向上を目指す。教員の研究授業は全員実施に至っていないため、対象教員全員が実施できるよう計画的に取り組んでいく。勤務時間内での研究時間確保が困難な状況が続いているため、具体的な数値目標を立案し、時間確保に努める必要がある。
------------	---

目標 2. 教育・教務における ICT 活用の推進

取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1. Wi-Fi 導入による学習環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ e テキスト導入、看護技術のオンライン教育ツールの活用 ・ オンライン文書作成ツールによる協同学習 ・ 出席停止中の学生へのタイムリーな授業配信 2. 健康管理システムの導入と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の健康状態把握の簡略化 3. 連絡網ツールを活用した授業の効率化、教員の業務量の軽減 <ul style="list-style-type: none"> ・ タイムリーな資料配布 ・ カラー資料のデータ配布による学習効果の向上 ・ アンケート実施、集計の効率化 4. ICT を活用した学校運営の円滑化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習指導者研修のオンライン開催 ・ ICT 活用による他校との交流、学生間の異学年交流
今後の取り組みと課題	Wi-Fi 環境が整備されたことで、講義だけでなく演習や研修、学校行事など昨年度以上に様々な場での ICT 活用ができた。また、連絡網ツールを活用することで一部教員の業務の効率化に繋がった。しかし、さらなる ICT 教育推進のためには、教員の ICT スキルを高めていく必要がある。また、学生への Wi-Fi 開放に向けた規程の整備が求められる。

目標 3. 広報および学生募集活動の強化

取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生募集活動、広報活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 推薦指定校 25 校すべてに訪問、募集要項の配布 ・ 一部の推薦指定校に対する推薦枠の増枠（1 枠→2 枠） ・ 募集要項発送状況と一般入学試験応募状況の分析 ・ オープンキャンパス開催方法の工夫（来場とオンラインの同時開催） ・ 夜間の保護者対象学校説明会の開催（来場とオンラインの同時開催）
今後の取り組みと課題	推薦指定校への訪問の継続と応募実績のある高校に対する推薦枠増枠を検討する。また、推薦枠を増枠したことの情報発信を継続する。そして、高校教諭対象の学校説明会を計画的に実施することで高等学校とのパイプを築き、当校の PR に繋げていく。今後も学生確保が困難な状況が予測されるため、情報発信の仕方や発信回数など、使用している SNS の特徴を理解した上で効果的に活用していく必要がある。

目標 4. 臨床と看護学校の連携の強化

<p>取り組み</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種連携教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・看護学生と臨床工学科の学生との協同学習 2. 実習指導の充実にむけた臨床との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者育成への支援（実習指導者会議・実習指導者研修の企画・運営・評価） ・学生による各領域別実習評価の実施 ・COVID-19 における実習内容の調整（学内実習、時期変更による臨地実習） ・教員インターンシップの実施（3 施設 5 名受け入れ）
<p>今後の取り組みと課題</p>	<p>引き続き臨床と連携し、実習指導の充実に努める。そして、母体施設との連携によるラダー研修への参加など卒業生のフォローアップ体制を組織化し、継続教育の強化や基礎教育での教育内容の充実に繋げていく必要がある。また、ホームカミングデーに限らず、卒業生が来校しやすいシステム作りが求められる。</p>

その他

<p>取り組み</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生による卒業時のカリキュラムに関する満足度評価の実施 平均 3.1 2. 令和 4 年度自己点検・自己評価/学校相互評価の実施 3. 国立病院機構及び社会に貢献できる学生の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格率 5 年連続 100% ・NHO 就職率 79.8% 大阪府下への就職率 89.3%
<p>今後の取り組みと課題</p>	<p>多様化する入学生の背景を踏まえ、レジリエンス力や自律する力など社会人基礎力の育成が不可欠となる。よりよい学校運営を目指して課題を明確にし、課題達成に向けて組織的に取り組んでいく。</p>

総評：社会情勢の変化やコロナ禍の影響もあり、看護職の希望者が減少している。そのような中で質の高い学生を確保するための広報活動や多様化する学生への支援、専任教員としての教育実践力とマネジメント力向上を目指した取り組みについて、概ねよい評価が得られた。今後も現状に満足せず、よりよい学校運営を目指して努力していきたい。